

治療体験記

1、狭窄症の診断から防衛医大を受診するまでの経緯

1、狭窄症の原因

落馬した際に馬に下半身に乘られ骨盤骨折、尿道損傷したのが原因です。

2、どのような症状か？診断された時の感想は？

事故当時は骨折による出血の方がひどく救急搬送先で手術を受けました。全く動けない状態でしたので、狭窄症は救急先での診断で説明を受けましたが、意識もうろうとした状況なのであまり理解はしていませんでした。膀胱ろうの手術が無事終わり、意識が戻っていく中で状況が解ってきた感じですが、しばらく痛み止めなどの影響でしょうか感覚などあまり感じなかったのも、事の重大さは良く理解していなかったと思います。

3、前医からどんな説明や治療を受けたか。

血腫がだいぶ広範囲で膀胱近辺が判断しずらく長くて6cm程度断裂していたと説明を受けました。血腫が退かないとその後の検査に移れないとの事でしばらく安静でした。この際もしばらく寝たきり状態です。治療は検査が出来る段階になるまではカテーテルの交換のみでしたが、この時期になると神経が戻ってきているので痛みや違和感を感じるようになり、気になりだした時期でもありました。交換時は取り替えるだけではありましたが、いままで経験していない痛み、苦痛で交換する事に対しての抵抗はかなりありました。痛みどめを処方して治療にあたって効果はほとんどありませんでした。そのうち膀胱炎になり高熱を出し強い痛みどめ(静注)で抑えるも切れると痛みが戻るので十分な睡眠時間が取れず、就寝時間で就寝できず、昼間も痛みで直ぐ目を覚まし、ストレスがどんどんたまっていった事を覚えています。

4、前医の治療期間について。

治療自体は4カ月程です。尿道狭窄の有効な治療を行っている病院がある事を知り合いに教えてもらっていたので、骨折の治療に専念していました。

5、日常生活で困り、不安におもっていた事は？

骨折でのリハビリがまず先にしなければいかなかった事なので、それに対してどこに採尿バックを固定しておくかなど何をするにしても扱いに気を配らなければいけなかったのも、非常に気疲れしたのと痛みは本人しか感じないので、問題を他の人と共有できない事にストレスを感じました。自宅待機の時も介護用ベッド

を借りるなど日常生活に戻ったとはいえ怪我をする前とは生活がだいぶ違って
しまうので慣れるまで戸惑いはかなりありました。

2、防衛医大受診から入院、手術、退院までの生活について

1、治療に関する情報をどのように集めたか？

知り合いから教えてもらいました。ただ、医療関係の方でしたので詳細を
調べていただいたので、そうでなかったら知りえなかったかもしれません。
体が動くようになってからは自分で情報を集めました。

2、どのようにして防衛医大の治療情報を得たか？

他の治療法があるとの情報の中に防衛医大のリストはありました。実際その
治療を行っている病院自体少ないので他に数えるほどしかありませんでした。
すべてインターネット上のホームページです。

3、尿道形成術についての説明を受けてどの様に感じたか？

事前にホームページなどでそれなりの知識はあって説明を受けたので、
詳細確認といった感じでしたがこれでようやく元に戻れるといった安ど感が
ありました。目標が出来たのでそこまで頑張ろうといった意識が出来ました。

4、手術までに不安に感じていた事は何ですか？

一度緊急手術を受け、その時は怪我をしてすぐの事出来たので、手術に対しての
抵抗は初めは無かったのですが時間がたち、説明を改めて受けると逆に冷静に
考える分だけいろいろと考えすぎてしまいました。手術ですのであらゆる事を
想定して望まなければいけないし、その様な詳細の説明を自分で読みサインをする
わけですから私の場合は最悪の事まで想定して準備をするまでの気持ちの整理
をするのに時間がかかりました。他の人には当然話さなかったのでなんとも
いえない気持ちでした。

5、どの様な手術を受けましたか？

端々縫合です。幸い断裂部分が1~2センチ程度で難易度の高い手法では
なかったようですが、上記の通り気持ちの整理をつけてきていたので、どの手法
でも同じ気持ちで臨んでいたと思います。

6、手術までの間、手術から退院まではどんな感じでしたか？

手術までの間は自宅待機でしたが、兵庫から埼玉への移動が診察の度
あり、東京に親戚がいてそこでお世話になれたので私の場合は小旅行の様な
感じでそれなりにポジティブな気持ちになれたので苦ではありませんでした。

あと何回で手術とカウントダウンしていたと思います。手術から退院までは楽ではありませんが、これを乗り越えたら元に戻れるという確かな目標があったので前向きな気持ちでしたが、また再度高熱が出た時には参りました。ただ前病院での症状と似ていて経験があったので、混乱はせずに済んだ事だけは幸いです。最後はやや無理を言ってカテーテルを除去してもらいましたが、それだけ”物”が入っているという違和感から解放されたいという気持ちでいっぱいでした。

3.退院後の経過

1、手術前の生活と比べてどの様な事が変わったか？

異物が無くなった事の解放感は格別です。ようやく元どおりの生活に戻れ気持ちがすっきりしました。

2、排尿状態はどうですか？

初めは頻尿状態がしばらく続きましたが段々と間隔が長くなり、気にならなくなりました。痛みはたまにありますが、体の動きに支障はありません。

4、これから治療を受ける患者さんへのメッセージ

入院、手術などストレスのかかる事が大きいと思いますが、その後 QOL の事を考えたらその瞬間での出来事ととらえてあまり深く考えすぎない方がよいかもしれません。病院にいる事自体だいぶ頑張っているのですそこでは治療に専念して無理をしないでのんびりしておいた方がいいと思います。あと、退院後も気をつけておいた方がいいと思います。体が日常生活に慣れるまでじっくり待つようにした方が良いです。そのような失敗が私にはありました。どの先生にも結局話はしませんでしたが結構大変だったので。